

「まれ」の贈り物

輪島市立西保公民館 主事 山田 祥子

信じられない出来事

人生には信じられないような「まれ」な出来事が時としてある。自分の生まれ育った町がまさかあの朝のNHK連続テレビ小説の舞台になるうとは。けれども過疎化が進み地域から学校が消え、奥能登の秘境と言われ続け、地元輪島の人さえ素通りするような町だった。



冬の沢「まれの里」

しかし、全国ネットでの放送のロケが始まり、まさか「自宅」が主人公の一家が身を寄せる民宿「桶作」のモデルになるうとは：「びっくりぽん！」やワ！

まるで「まれ」だった一年

思えば勤務先の西保公民館は昨年十月のほぼ一ヶ月貸し切りでロケの控え所になった。その時はま

るでスタッフの「はしくれ」になったようだった。「早朝5時半に開館して」は手始めで、市の担当者も気軽に難題、例えば「明日までに六十代のエキストラ男女三人ずつ頼む」とか「大沢夏祭のエキストラ百六十人振り分けてほしい」などなど私たちの方が地元の人を知っているからとふって来た。

観光ガイド「輪島あかり人」として輪島市観光協会から依頼があると、エキストラをした時の「もんぺ」をはいて案内した。5月の連休に谷本知事が見えた時も「この日だけ雨だったのだが」カッパを上に着てご案内した。ガイドの最初の頃感心した事がある。〇〇女将の会や有名旅館の従業員も研修を兼ねて来たこと。お客さまとの話題の「種」に必要なの判断は



まれバス



知事を案内

さすがであると感じた。乗り物が見えなくなるまでお見送りさせていただいた。あと私たちの地元婦人会が「間垣ミセス」として学校給食歴の長い同僚を中心にロケを応援した。ロケ弁を補う地元食材を生かした「まかない料理」を何回か提供させていただいた。

そんなこんなでエキストラはもちろん新聞社の取材、雑誌からの原稿依頼、ウオーキングやコンサートの企画、ついには各局の番組にも出演し、私の一年はまるで「まれ」だった。海から外浦村を見ようと遊漁船もスタートしたが試行錯誤の連続で私の体重は4キロ減った次第だ（これはうれしい副産物！）。でも逆に家族の協力は増え会話もたくさんに。



海から外浦村を見る



子ども広場のやぐら

一番変わったのは？

おかげでまづ気がつけば「私」が変わったようだ。シャイでおとなしく本来は内気な私だったはずが、このたびは次第に「言い訳して逃れようとしてもだめや」とわかるようになり、即答で「はい、わかりました」と何でもござれ、怖いもの知らずの大胆な人に！慣れというのは怖いものです。「おばさん」としての貫禄も出てきたのかもしれない。でも美術班の方々の思わず差し入れたくなるような働きぶりや、スタッフの人の段取りのたいへんさ、同時に見事にプロ意識をみただけです。また俳優の方々とのおふれあいなど、本当にかけがえのないものをたくさんいただいた。分厚いスタッフ用の台本が一日一日消化され初めて知ったドラマ撮影の裏側に感心した。またどの人も能登の良さを伝えようとしてくれていて、ありがたいうちで思っている、ありだった。ありのままの私でできることをさせていただこう、喜んで「まれ」の「広告塔になろう」という決意をしたのだ。それは今も続いている。

「まれ」が発信してくれた「能登」
 「まれ」がもたらしてくれたもの、をいくつか挙げると、
 一つ、「まれ」は鄙びたパーマ屋やオープンングの高台の野菜を持ち寄る丘や、海に続く道など、近くの人は気にもとめないような場所つまり「奥能登」にスポットを当ててくれた。



「村役場」は販売所に

一つ、「まれ」は空き家に壁画を描き村役場とし販売所として開放してくれた。たくさんの方が立ち寄ってくれる。

一つ、「まれ」のおかげで俳優さんが話すとてもやわらかく自然で方言の良さを見直すことができました。

一つ、「まれ」のおかげで輪島



桶作家間垣桶修



間垣桶修
デモンストラーション

塗や揚げ浜塩田の塩も地道にコツコツの職人の仕事が見直される大きなきっかけになった。

一つ、「まれ」は国の重要文化的景観の認定を受けた間垣も「本物の映像を全国に届けたい」と15,000本の苦竹を工面し補修してくれた。

一つ、「まれ」のおかげで「デザート」でなく「スイーツ」も定着した。一つ、公衆トイレが公民館に完成・・・！

夢を目指して頑張るヒロイン「まれ」の成長が本当によく、仲間と家族の絆の大切さとともに描かれていたと振り返る。もうなかなか客観的に見られないほど身近な「まれ」が、これほど能登の良さを発信してくれるとは、今でも信じられないくらいだ。

「間垣の里」＝「まれの里」へ
 変わったのは私だけではない。主題歌の「まれぞら〜希空〜」がつま弾くようなやさしいメロディでオルゴールになった。のと里山



大沢夏祭りの
再現口ケ



片山三千雄氏が
紙芝居で応援

海道の別所岳パーキングのそばの道も時速70キロで一番よくこの曲が聞こえらるとなると減速して聞くのは私だけだろうか。(いつまで流れるのかな？との不安も正直よぎるが)大沢の住民自体も、五年間休んでいた夏祭りの山車がロケのおかげで再現されまぼろしの山車をもう一度観ることができた、エキストラに出たことが冥途の土産になった、「自分は台詞があったげじゃ」というあだなが「ひやくまんさん」のおじいさんなど・・・変わりました。観光客にたずねられて恥ずかしそうに答える姿、何十年来会えなかった友がひよっこり訪ねてきたり、年賀状さえ交換しなくなったりと疎遠だった親類から「見たよ！」と連絡があったり、一生の思い出になったとの声がかかる。

何も無いと思っていたふるさとが、実は決してそうではなかったと分かったのは正に「まれ」のおかげだ。例えば、石川県に三体しかない友情人形メリーがあったり「長太猪」の実際にあった民話があったり。平家の落人伝説とからむ枕貸し伝説、猿鬼伝説もあったり。十村役の筒井様がいて栄えた時前田家の十三代將軍齊泰公が宿泊された「その時に桶瀧と男女滝を見て真紅のノトキリシマツツジの太木を愛でられたそうだ」など。四季折々の海山の幸にも恵まれていたという自覚が生まれた。またいろいろ「あーでもない、

こーでもない」と話のできる婦人会の仲間や家族・・・歴史と文化と人々の知恵と暮らしが確かにありました！かけがえのない「宝物」がこんなに身近にたくさんあったのです・・・！ここでも「びっくりぼん！」

私たちにふるさととのすばらしさを気づかせてくれ、地域に元気をくれ、たくさんのお会いをくれたのが「まれ」だったのでと思う。これからの「能登」は未知数だ。観光課の課長に「まれで手一杯で公民館の仕事が後回しです、すみません」と言ったら「山田さん、何ゆうとるげねん、これが地域おこしや、何よりの公民館の仕事でないけ、ようやくとれとるよ、がんばるまし」と励まされ、課長

が初めてこの土地に来て、夢を探してチャレンジして恋をし家庭を持ち悩みながら子どもを産み育て成長していったように、この機会を生かし地域と共に成長していくかどうか、これからにかかっている。

みなさん、「まれ」の放送は終わり、「台湾」での放送も終了したけど香港での放送が始まったらしいですよ。ロケーション大賞受賞といううれしいニュースも加わったし。まだ来てない人はいますか？。ぜひ奥能登、輪島、「間垣の里」、「まれの里」に来てくださねん！私たちがご案内しますさけ！